

# 「善に生きる！！」

～最善を選ぶ人生！！～

ローマ7:15-25、8:1-10

## ■ 自分は本当に正しい？…

1960年頃、初代豪華客船クイーン・エリザベス号が航海をしていた時、夕方になり海が荒れてきました。今はGPSというものがありますが、当時は星を見て自分の位置を確認していました。ところが、雲が出て暗くなって海も荒れてくると自分の居場所がわからなくなります。けれど、当時の航海士は長年の勘で船を走らせていたわけですからすごいですね。そんな中、前方に光が見えました。船長は船だと思って警笛を鳴らしたり何度も信号を送りましたが、その船はよけようとはしません。船を進ませる方向が絶対正しいと思っていたので進路を曲げるわけにはいきません。イギリスの国家権力をもって作られた船の船長だという自負もあったでしょう。そこで、モールス信号を使って「私達はクイーン・エリザベス号だ！今すぐどけなさい！」と送りました。すると「こちらは灯台だ！よけられるわけがないだろう！」と返信がありました。自分が正しいと思うと人間というのはいつでも自分が進む道を進むためには相手をどけようとしています。自分は正しいけれど相手が間違っているという感覚。それは時として人生を台無しにする可能性のあるとても危険な行為です。ですから、「もしかしたら私が言っていることが間違っているかもしれない。」と少し考えなければならぬと思います。当たり前と思っただけが実はそうではないということが結構あります。私達の教会は特に自分が正しいと思っただけの生き方に対して「もしかしたら違うんじゃない？」と結構言われます。こういった指摘を受けた時ショックを受けませんか？けれど、本当はショックを受けるようなことではありません。クイーン・エリザベス号の船長が灯台だと気づいた時「いや！あれは船だ！」と強情を張ったのでしょうか。灯台だとわかったのですからすぐに進路を変えることができました。もしわからなかったら座礁して2000人以上の乗客が大変なことになっていたのですから、わかって良かったと思っただけです。それと同じことです。私達は間違っていたことに気づいた時どうしますか？結構強情ではないでしょうか。人のことは結構わかるのに自分のことはなかなか受け入れられません。素直に聞けばいいことを素直になかなか聞けないのです。今日はぜひ自分がどの道を選ぶべきかということをもう一度考えていきたいです。

## ■ 善と義…

「悪」の反対は何でしょうか？聖書を見るとアダムとエバが食べた木の実の木を神様は「善悪の木」と呼びました。ですから、聖書ははじめに「悪」の反対は「善」であるということを伝えたわけです。けれど、「悪」の反対は「義」だと思っただけではないでしょうか。正義について「義人はいない。ひとりもない。」(マ3:10)と聖書には書かれています。ですから、聖書の中から読み解くと、私達の中で義な人は一人もいないのです。「善」と「義」という言葉は非常に近いのです。どちらも「羊」という生贄の存在があって、そこに「人」がいるか「我」があるか。「善」は裁判からできた言葉です。一人の当事者と一人の当事者がいて、二人は羊を持って出て来てそこでその羊をささげることを通して自分の罪を免れた上で正しい裁判を請うたわけです。罪を犯した時に羊を捧げる方法は旧約聖書で神が定めたものです。「義」という言葉の下の「我」という字は「剣」といわれます。私達人間は漢字では剣のように訳されています。私達は人を訴える時、剣をもって闘わろうとします。裁くわけです。本来聖書のいう裁きは善か悪かを裁くのですが、人は相手を罰しようとするわけです。神様は人に罰を与えるわけではありません。神様の正しい正義があって、間違っただけならばイエス・キリストの犠牲をもってその罪が赦され、そして今度は正しく歩めるように最善の道を伝えるのです。

## ■ ①善に対する知識！！～再び学ぶ！！～

私達は善悪を知ったのですが、悪の世界に生きています

から善を忘れたのです。そして善を忘れた私達は何が善かがわからなくなったのでルールを設けました。それが今の法律です。それは自らを守るためのものです。人が人として自らの主権をもって自らの立場を守るための法律なのです。聖書の法律がルールとなってしまったのです。だから、聖書を読んでいくとイエス・キリストがルールによって十字架にかけられたことがよくわかります。安息日に手の不自由な人を癒したイエス・キリストを律法学者達は安息日にしてはならないことをしたというルールに基づいて裁いたのです。ルールが私達の社会を縛っています。だから、ルールに反する人を私達は正義によって裁くのです。そして、正義によって裁いて何をするかというのを排除しようとしています。確かに聖書は間違っていることを間違っていると伝えます。けれど、それは間違っている人を裁いて排除して追放するのではなく、その人が悔いることで良くなるようにしたいのです。教会の働きの中心はここに 있습니다。何かを指摘されたのであれば落ち込む必要はありません。間違っていたことに気づいたのだからそこから戻ればいいだけです。私達は神様から与えられたルールに基づいてその時にできる最善の事を選んでいくのです。

## ■ ②裁いてはだめ！！

人を裁くのをやめなければいけません。けれど、間違っただけのことをする相手に対して聖書はその人が正しい道に戻れるようにベストを尽くしなさいと言っているのです。最善な方法。つまりその人に実が残るような方法を選びましょう。ですから、今日からぜひ善を探して下さい。善を探す方法は簡単です。聖書からイエス様が生きた道のりを思い返せばいいのです。そして、神様が喜ばれた人はどう行動したのかをぜひ一緒に学びましょう。善を行わないで義を行ってしまう時、人を傷つけてしまいます。だから、私達はいつも最善を尽くして、自分がやったことが正しかったかどうかはその相手がどう行動したかを見れば良いかと思えます。

## ■ ③人にした善は忘れる！！～左の手に知られるな！！

偽善。これは相手に正義を求める行為です。自分は善者ではないのに善者のように偽って「これは間違っている！」「これは合っている！」と言うのです。私達は偽善者にならないようにしなければなりません。善の反対は悪です。そして、私達が今まで善だと思っただけで正義だと思っただけの中には沢山の悪があることを知って下さい。人を指さす行為は今まで自分は正しいと思っただけかもしれませんが、聖書はそれを「最大の悪」と呼んでいます。ですから、私達の心の中に潜んでいる正義という名の悪を棄てましょう。そのためには神様の前に自分は間違っていたんじゃないかと思った時に聖書を開いてイエス様はどうしたかを読みましょう。私達の心の悪に対して塗り替えることができるのは神様の正義だけです。私達は人に正義をもつことはできません。しかし、神様は正義ですからベストなことを伝えてくれます。心を頑なにせずプライドを棄て、持論を棄て、素直になるなら私達は命を得ることができます。「自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。」(マ10:39)

## 祈りましょう

神様。頑な心をとって下さい。善を行うのに飽くことなく信じて行って待ちます。あなたはその善に報いて下さる方だからです。損得勘定を取り去って下さい。私にとって近い人を、隣人を本当に大切にすることが出来ますように。自分の価値観を降ろし、あなたから学ぶことが出来ますように。

(要約者:全本 みどり)

(4月17日)